

城原川だより 66号 城原川を考える会

【ダムに拠らない治水をめざすには】

H27. 9. 18(金)

次回発行予定 H27 10月15日(木)



ダムは地域全体でみれば付け焼刃の治水

8月24日山口知事とお会いしました！

7月に予定されていた面会でしたが、知事の急病で延期となっていました。

お元気な知事とお会いできて、まずは安心しました。皆でリスクを分け合うという流域治水の考え方がこの地域には一番ふさわしく、それは成富兵庫茂安を始めとした先人の知恵であり、今最新の治水の考え方であること。脊振地区の多くの方々との話し合いをはじめ、水没地の方々にはきちんとした感謝をすべきであるということ。城原川のすばらしい治水システムを現地で是非見ていただきたい、等のこととお話しました。

8月25日付けの佐賀新聞記事を紹介します。

「考える会」知事に要望 城原川ダムによらない治水



事業見直しの対象になっている城原川ダム（神崎市）をめぐり、ダムによらない治水対策を探る市民グループ「城原川を考える会」の会員らが24日、佐賀県庁で山口祥義知事と面会した。流水型ダムの計画に懸念を示し、約400年前から流域に残るといふ先人の治水技術を生かした「流域治水」の実現を求めた。

佐藤悦子代表（神崎市千代田町）ら7人が訪れ要望書を手渡した。雨水をダムにためるのではなく、成富兵庫茂安の治水事業の名残とされる「野越し」などの機能を現代の技術で補強、再構築し、流域全体で受け持つ方策を提言した。「流域治水でやれば命は取られない」と説明し、想定を超える洪水にも対処できる地域になると強調した。

山口知事は「洪水に対する備えをしっかりとしないといけないという思いは同じ。不安を少しでも和らげることに尽くしたい」と述べた。また、事業主体の国土交通省九州地方整備局と流域自治体とでつくる「検討の場」での協議の行方について、「さまざまな意見の中で、流域に一番いい計画が示されるものだと思う」という認識を示した。

考える会は、流域全体の視察も要望した。山口知事は明言を避けたが、面会後の取材に対し「私も（現地を）見たことはあるけれど、皆さんの解説を聞きながら行く機会があってもいい」と答えた。

朝日新聞記事も紹介します。

城原川ダム（神崎市）の建設計画問題で、ダムに頼らない治水を目指す流域住民らでつくる「城原川を考える会」の佐藤悦子代表らは24日、県庁で山口祥義知事と面会した。古川康前知事が提唱した流水型（穴あき）ダム案を継承し、建設推進の立場を取ったことに懸念を示し、城原川の現地視察を求めた。

県は面会時間を15分と設定。佐藤代表は「流水型ダムが県の方針と決まっていたという認識がなかったので、びっくりしている」と語った。

古川前知事は2005年、国土交通省のダム建設計画に同意し、ダム下方に穴があって普段は水をためずに流す「穴あきダム」を提案。同省は同11月、「技術的に可能」と返答した。

今年1月に就任した山口知事は、3月にダム建設予定地の住民たちと会い、「みんな建設で気持ちを一つにしている」「流水型でも早急にやりたいという気持ちを受け止めた」などと話し、穴あきダム建設を求める方針を明らかにした。

こうした経緯に対し「考える会」は、この日の面会で「国の『技術的に可能』という返事の段階から進んでいないと思っていた。流水型ダムについての検討や議論はされないまままことが進んでいるように見える」と指摘した。

さらに城原川には、江戸初期の佐賀藩家老で「治水の神様」と呼ばれる成富兵庫茂安の水利事業が施されており、補強して再構築すれば、想定した計画を超える超過洪水もしのげると主張。佐藤代表は「ダムよりいい治水はある。成富兵庫の知恵は生かせる」と話し、成富兵庫の事業の検討や評価について尋ねた。

山口知事は「皆さんの活動は尊いもの。一度来いという話もあり、色々な方々の思いについて一緒に考えていきたい」と応じた。

城原川ダムは1971年に予備調査が始まったが、住民の賛否が分かれたうえ、民主党政権時のダム事業見直し方針もあり、計画が進まないまま40年以上経過。今年5月、ようやく国交省九州地方整備局と県、佐賀市、神崎市による「検討の場」が初開催された。ダム以外の治水案も含めて検討する。（石田一光）

上記の記事のように、山口知事には真摯な対応をしていただきましたが、ここだけのことに終わらず、「何が一番よい治水なのか」ということを踏み込んで考えていくことを県には要望し、今後とも提言を続けて行きたいと思います。

9月1日 第2回の「検討の場」開催

去る9月1日城原川ダム第2回検討の場が開かれました。予測はしていましたが、やはりがっかりする内容でした。

何故なら

- ・資料に示してある情報の内容が理解できない。
- ・また、必要な情報が提示されていない。
- ・パブリックコメントに全く答えていない。

といえるからです。

資料の内容が理解できないことについて

まず、穴あきダムと流水型ダムの違いはなんなののでしょうか。もともと穴あきダムと流水型ダムは同一の物として表現され、私たちもそう認識していたと思います。区別しているとすれば、滋賀県の取り組みの中にその相違がみてとれるくらいです。しかし、今回国は流水型ダムと穴あきダムを明確に分けて表現してきました。660億の事業費がかかると思われる穴あきダムに対し、穴の位置を下に下げた(図ではその違いしかわからない)流水型ダムの事業費は480億円となっています。ダム以外の事業費は610億から700億になっていますから、事業費を下げたことにより、「やはりダム案が最適」という結論になることは明らかです。このダム以外の案の事業費の出し方も一切わかりません。大熊・田辺論文では200億あまりでできる代替案があったにもかかわらずです。

私たちが提出したパブリックコメントにたいする国の考え方にも多くの疑問があり、それらの事については次回詳しく記したいと思います。

また、過去の洪水実績などのデータの点検については（このことが計画の前提になっている）、この時点で別途インターネット等により公表する予定となっていました。約1週間後に公表されましたが、疑問点が多く九州地方整備局に直接電話質問を行いました。

以下そのやりとりです。

対応：九地整河川計画課 太田建設専門官

質問1. 別添え資料-1の2ページに28水の時間雨量に久保山のデータが入っていないのはなぜか？

回答：データの信頼性の確認が取れない。佐賀県にも確認したが取れない。

Q：それでは一番重要なデータを無視することになる。

質問2. 後の資料でもS60年までしかないがなぜか。

回答：平成15年に基本高水の計画した時に使ったデータの点検であり、H5年までのデー

タの点検である。

質問3. 2009年、2010年の洪水データを使って、H15年計算の検証をすべきでないか。

回答：していない。

質問4. 690m³/s実際に流れたという考えは今でもそうか。

回答：そうだ。洪水痕跡から計算している。(以前と全く変わっていないということ)

質問5. 5月29日に局長あての質問書を出しているが回答がない。

回答：佐賀支所で大分答えていると聞いている。

Q:ほとんど答えていない。文書で回答してもらうかこちらで出ていきたいと考えている。

九地整のダムの考え方は、H15年の計画から全く変わっていません。実際に690m³/s流れたという考えも変わっていません。

2009, 2010年の洪水を検証としないのは、矛盾が出て来るからです。

これが専門家、技術者といえるのでしょうか。

10月18日には嘉田由紀子氏を神埼にお迎えして、滋賀県の流域治水（ダムに拠らない治水政策）の取り組みとそれを阻む大きな壁についてのお話していただきます。皆さんお誘い合わせのうえおいでください。

第81回定例会10月15日（木）14：00～16：00 神埼中央公民館

第38回筑水研総会記念講演会 10月18日（日） 神埼中央公民館

基調講演 嘉田 由紀子 氏（滋賀県元知事）

13：00～16：30

主催 筑後川水問題研究会

共催 城原川を考える会

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神埼市千代田町境原282-12
電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神埼市神埼町城原1877-1
電話 0952-52-2827

Mail：teaho74@yahoo.co.jp

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしおよせください。

文責 佐藤悦子